

新藤信夫市政ニュース

平成22年3月
Vol.14
発行:自民党さいたま市議会議員大宮区西支部
TEL 647-7713
FAX 647-7726



予算議会終わる

新藤信夫



2月定例会 委員長報告

さいたま市2月定例会は2月9日開会し3月19日までの39日間に及ぶ長期間の会期で開かれました。今議会は昨年5月にスタートした清水市政が、この8ヶ月間相川市政下で編成した予算で市政を運営してきたのに対し平成22年度に向けて独自の予算を審議する議会でした。

め、それらを支援する事業を実施していきます。

健康・安心・安全

日本一健康で元気なまちづくりを進めるため、「スポーツ文化局」を新設して、「スポーツ振興まちづくり条例」の制定を目指すとともに、独自の生涯福祉サービスを継続し、地域消防については強化を図ることとしています。

環境・まちづくり

日本をリードする環境先進都市を目指し、電気自動車の導入、太陽光発電の拡大、緑のカーテン事業等を推進します。都市整備では平成24年度までに下水道普及率90%を目指し、大宮駅周辺については基本計画を策定して整備を進めるとしています。

経済・雇用

強い産業基盤の構築を進めるとともに区役所に自立支援生活窓口を置いて安定就労や住宅支援を行うとしています。以上が予算の裏付けとなる施策であるが、中身を細かく見ると後述している部分や、さらに検討を要する箇所があり、付帯決議として次の内容を自民党の発議により加えることとなりました。

市長の施政方針演説では、①地域主権の実現、②行政改革の本格始動、③子どもが輝く絆で結ばれたまちづくりを3本柱と位置付け市長選挙のマニフェストをベースに打ち立てた「しあわせ倍増プラン2009」を掲げて予算編成を行ったことを宣言しました。

その結果、平成22年度の一般会計予算は4,290億円、対前年度比9.7%増となり、増額の主な要因は子ども手当の創設、中小企業融資枠の拡大、生活保護費の増額などによるものです。また、特別会計企業会計を合わせた総額は7,228億円余りで6.7%の増となっています。

なお、当予算では約73億円の歳入不足となっています。そして、予算の内容としては、以下の点を重点施策とした予算額で決議されました。

区長の権限拡大

市民と身近な市の出先機関である区役所のあり方を検討する委員会を設置して、検討を重ね組織改正や区長の権限移譲を行い区民ニーズや地域の課題に自主主体的に対応できる区役所の構築を図っていく方針を固めました。

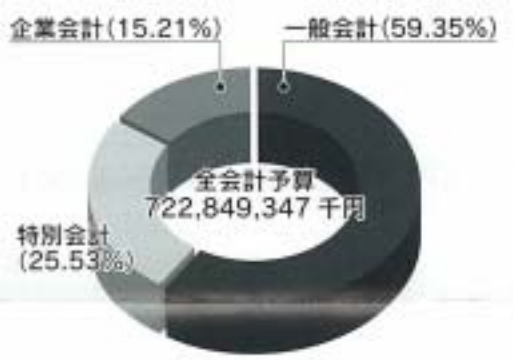
子ども施策

子どもを社会の「宝」と位置付けて、親子の絆を深め社会全体で子育て家庭を支援していく取組みを進めていくこととしています。

高齢者施策

全国平均と比較してさいたま市では、高齢化が急速に進んでおり、生きがいづくりや介護、医療等の充実を図るた

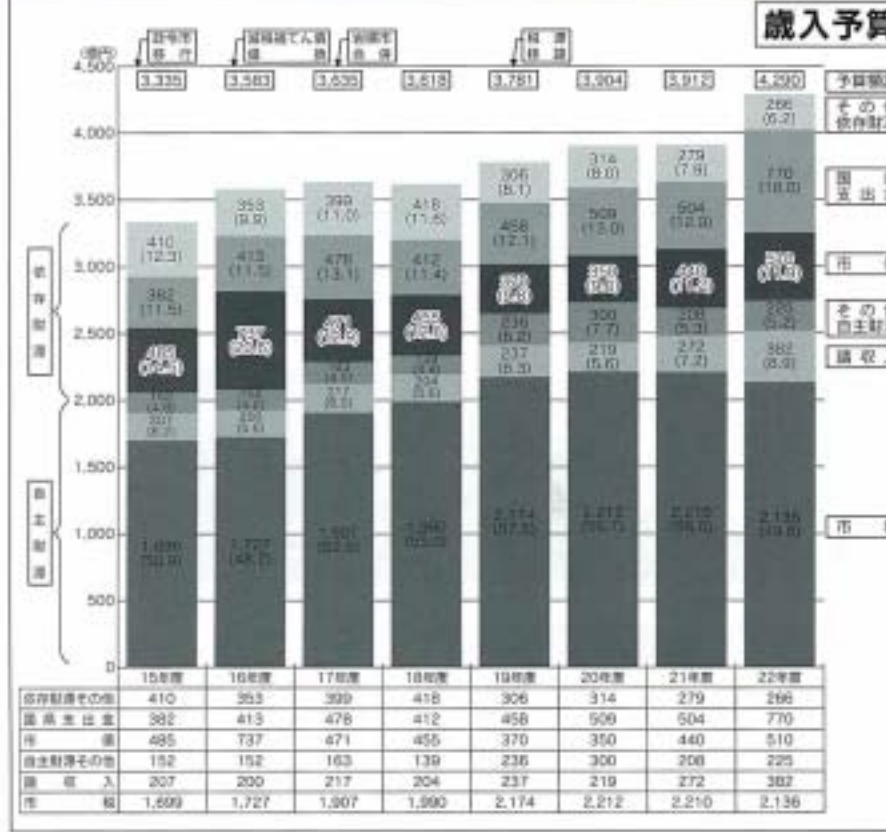
予算規模



会 計	平成22年度	平成21年度	増 減(増減率%)
一般会計	429,000,000	391,230,000	37,770,000(9.65%)
特別会計	184,567,000	174,600,000	9,967,000(5.71%)
企業会計	109,282,347	111,498,290	△2,215,943(△1.99%)
合 計	722,849,347	677,328,290	45,521,057(6.72%)

- ①敬老の日に合わせて支給する高齢祝金の減額については考慮すること。(88才・99才・100才以上に支給することになった。)
- ②学校警備員の削減については当面、現行どおりとし、削減して実施する場合にはPTA、自治会等と充分に協議の上行うこと。(4時間の警備となった。)
- ③子ども手当支給事業について財源の金額を国庫負担とすることを強く求めていくこと。
- ④スポーツ振興まちづくりの実施に当たっては、関係団体等の意見を反映させること。

一般会計予算額の推移(平成15年度～平成22年度)



市民の声

地震防災対策：安全はまずは自分から

阪神・淡路大震災から今年で15年目を迎えました。この日は、神戸市東灘区に住んでいる親戚から、朝7時に「何があったの?」という電話を貰ったことを今でも鮮明に覚えています。その声からとんでもないことが起きているとすぐ感じられました。

今でも、報道を見ているとその痕跡は大きく、私たちは市民として、戦後最大の地震被害をもたらした阪神・淡路大震災の教訓と経験に耳を傾け、今後の災害に備えていかなければなりません。「天災は忘れた頃にやってくる」とは、物理学者で随筆家の寺田寅彦の名言です。

地震災害について言えば、まずは3日分の食料と一人1日3リットルの水を最低用意しておくことが肝要とされています。また訓練では、例えば地元の防災訓練や避難所夜間訓練などに参加し家族で体験しておくことも大事なことです。家具・ピアノなどの転倒対策も講じておく必要があります。

今では多くの人が災害の備えをしていると思いますが、皆様の防災対策はいかがでしょうか。まず自分の家から、また地域へと目を向けて今一度その対策をチェックしてみてください。加えて外出の時には、自己防衛のためにどうすべきかも、考えておくべきです。

(大宮区の地震嫌い)

岩槻WATSUビルの再建計画

私が委員長を務めている「まちづくり委員会」の案件であった岩槻駅前にある再開発ビルWATSUの管理会社である岩槻都市振興協会の再生計画が可決しました。

この岩槻都市振興協会は平成8年のWATSUのオープンに合わせてキーテナントとして出店したサティの親会社であるマイカルと岩槻市の出資で設立した会社でした。その後マイカルが破綻、サティは賃料を半減することにより営業を継続しましたが、大きな負債を抱えたまま、さいたま市との合併を迎えました。そして今年の3月22日にはついにサティが撤退しました。さいたま市は岩槻駅前の賑わいを確保するためこの半年、再生計画を練ってきましたが、最終的には整理回収機構(RCC)のスキームを使って岩槻市時代に拡大した約18億円の債務の内、約13億円を債権放棄、マイカルにも約29億円の保証金の内、約27億円を放棄してもらった上で残る債務を返済するために、さらに、さいたま市から新たに5億円を資本金として注入して再建を図るといふものです。さいたま市の債権放棄は元々岩槻市民の税金ですから、大きな無駄遣いだとの批判もありましたが岩槻駅前の沈滞には代え難いと言う理由で多数の賛成で可決しました。幸いにして後継テナントとしてB1階と1階の一部にマルエツが入居することが決定し、1階の一部と2階には地元のテナントが残ってくれることとなりました。そして、3、4階には行舎の耐震化で問題を抱えている岩槻区役所が1年後に入る事ではほぼ想定された問題はクリアできた様に思えます。民間が活力を失っている今日の様な不況下においては市の出先が入る事によって再建スキームが成り立つこととなります。

似たような話が新都心の8-1A街区(第2東京タワー跡地)に付いてささやかれています。この土地は都市再生機構(UR)と埼玉県、さいたま市が所有していますが、事業提案によって三菱地所グループが商業ビルを展開することで計画を進めてきました。しかし、ここにきて不況のため規模縮小、あるいは撤退する噂が出てきました。これによって当初から計画されていたサッカープラザ案を否定しつつも、未だ代替案を示せなかった清水市長に取っては救われた形となりましたが、これこそ、ある市長候補者が力説していたように市役所を移転させることによって収支が成り立つことになるかもしれません。

もう一つ将来のまちづくりに大きな影響を与えるであろう話題が民主党の事業仕分けの中で出てきました。それは「まちづくり交付金の地方移管」です。この基金は地方都市が行う道路築造や下水道、都市再開発等に対して補助する資金で、国が認めた地方の事業に平成16年から補助してきたもので、さいたま市でも西大宮駅などの事業に活用してきました。国土交通省では今事業が継続している事業のために約1,800億円の基金を確保していますが、これを地方に移管すると言うことは、これから開始する事業については国から補助が出なくなる恐れがあると言うこととなります。さいたま市においてはこれから浦和駅西口や大宮駅東口で都市再開発事業を推進しようとしている最中のことで、事業構想の大幅な見直しを迫られることになるかも知れません。

政権が変わったことによって予算の大幅な組み替えが行われようとしています。地方にも大きな影響が出ることは間違いないでしょう。これからも注視していかなければなりません。



WATSU

トピックス

宮前ジャンクション開通

新大宮バイパス(国道17号)がR川越線を超えて国道16号と合流する形で一部併用していた宮前ジャンクション(西区宮前町)が、3月28日に国道17号の上尾市西部への延伸に伴い全面開通しました。この日は、圏央道(首都圏中央連絡自動車道)の橋川ジャンクションも開通し、近々西ジャンクションが連結することにより、埼玉県中央部を東西に結ぶ高速道路交通網が充実することになります。

27日の開通式には、上田埼玉県知事、清水さいたま市長をはじめ多くの地元関係者が列席して行われ、私も、まちづくり委員長等として列席させて頂き開通を祝いました。

日進駅北口オープン

3月27日、日進駅の橋上化工事が順調に進み駅構内の南北自由通路と北口が開通となり、この日11時30分から清水市長、関根議長をはじめ多くの関係者が列席し開通記念式典が行われました。日進駅は長年にわたり南口だけの開業で、今まで踏切を越えて駅に入らなければならなかった川越線北側の日進1、2、3丁目の皆様にはたいへん不便をかけてきました。また、当駅北東側の大成建設等の跡地の再開発によって完成した事業所やマンションへのアクセスも格段に良くなり日進駅の利用者も増加するものと期待されています。

大宮盆栽美術館開館

3月28日、盆栽町に隣接した北区土呂町地内に「さいたま市大宮盆栽美術館」が開館しました。

盆栽文化振興の核として、世界に誇る盆栽の名品を展示し、盆栽文化の紹介や国内外への情報発信、愛好家などの交流を図る施設として期待されています。

3年前、高木コレクションからの5億円での盆栽購入、また、その後の不十分な管理による購入盆栽の枯死など、いくつ大宮盆栽美術館(さいたま市HPより)かの苦節がありました。が近隣の盆栽園のご協力により開館の運びとなりました。常時100鉢前後の展示を行い、四季を通じて盆栽の魅力を堪能して頂ける施設となりました。是非一度ご鑑賞下さい。

観覧料 一般300円/高校生・大学生・65歳以上150円/小学生・中学生100円



耐震化が遅れている区役所 (西区の方からの間に答えて)

さいたま市全体についてお話しすると面積が約217km²、人口は約122万人、で10の区から構成されて、全国18の政令指定都市の中で人口規模では9番目の大都市です。

次に西区については人口が約8万人、さいたま市の中では人口が一番少ない区です。一番人口の多いのは南区で、約17万人で西区の倍以上の人口規模となっています。

このような中で区役所の建て替えが必要なのは、中央区、大宮区、岩槻区なのですが、優先順位が付けられていて、その要件としては、耐震性(安全)、人口規模、建築用地の確保等です。西区役所は平成15年の政令市施行に合わせて建てられたもので安全性には問題ないもので築年数も7年と他の区役所に比べると新しい建物と言うこととなります。西区では今年の3月に西大宮駅が開業し、駅の北側では都市再生機構による土地区画整理事業が行われています。しかしこの事業によって定着する人口は約1万人と推定されて、これが加わっても中央区と同程度の人口です。中央、大宮、岩槻の各区役所は旧市役所の建物をそのまま引き継いでおり、昭和30年代から40年代前半に建てられたもので耐震性を考えたらすぐにも建て替えたいものばかりです。

もう一つ西区には課題があります。それは西大宮駅の南口の土地区画整理に全く目途が立っていないことです。朝の通勤時には狭い道に送りの車が入ってきたいへん混雑しています。指扇駅北口開通も含めて早く整備をしたい課題です。これらのことを勘案すると自ずと否は出てしまうのですが、当地の区画整理が完了する5年後ぐらいには、プラザノース(北区)のような施設ができることを市会議員としても願っています。



大宮区役所



西区役所



中央区役所



岩槻区役所